

# 令和年 8 度「一般選抜（前期日程）」

## 出題の意図

### 「公共、政治・経済」

- ・ 各学部・学科の試験科目については、入学試験要項等を参照してください。
- ・ 出題の意図に関する質問や問合せには一切回答いたしません。

## 出題の意図

|        |                |
|--------|----------------|
| 試験日    | 2026 年 2 月 3 日 |
| 教科・科目名 | 公共、政治・経済       |

|     |   |
|-----|---|
| I   | 世界各国における議会制民主主義の発展とそれぞれの国の政治制度について、教科書に記載されている内容を中心に、時事問題を織り交ぜながら、用語の記述および正誤問題を通して、政治制度の基本的な概念や運用についての理解度を問う問題です。   |
| II  | 現代の国際社会ではさまざまな課題や問題が存在することから、これらに対処するにあたっての国際社会の仕組みや特徴を理解しているかを問う問題です。とりわけ国際社会における裁判所や国際連合の制度的側面を問うことで、グローバル化が進む現代社会に生じる課題に取り組むにあたって、国際機関が果たしうる役割を正確に理解しているかを確認しています。                     |
| III | 資本主義経済や社会主義経済に関する代表的な人物や著書、政策についての基礎的な知識を問う問題です。  |
| IV  | 私たちが生活する経済社会の中心的担い手である『企業』についての総合的な理解を問う出題です。前半では会社法上の形態（株式会社、合同会社など）やガバナンスの仕組みといった実務的な知識を問い、後半では持続可能な社会に向けた企業の新たな動向（ESG やソーシャル・ビジネス）への関心を確認しています。法制度から現代的な社会課題まで、多角的な視点から経済を捉える力を求めています。 |

## 出題の意図

|        |                |
|--------|----------------|
| 試験日    | 2026 年 2 月 4 日 |
| 教科・科目名 | 公共、政治・経済       |

|     |   |
|-----|---|
| I   | 近年では、特に安全保障の問題が国際社会の関心事の 1 つとなっています。日々生ずる課題や問題は、これまでの歴史が関係しており、国際社会の抱える課題の理解や解決方法の発見のためには、経緯や国家間関係、国際社会の取り組みを理解する必要があります。この問題では、安全保障に関する主要な条約の枠組みと国家間関係の基本を理解しているかを確認しています。 |
| II  | 大学入学後の専門分野の学習を社会で生かすためには、現在の社会状況を理解する必要があります。社会状況を理解する上で政治の理解が必要であり、さらに民主主義国家では政治の理解のために選挙の理解が欠かせません。したがって、この設問では日本の選挙と政治制度の理解を確認しています。                                     |
| III | 国際経済に関する基礎的な知識について問う問題です。近年の国際収支表から読み取れる内容、および昨今の国際課税の諸問題に関する空欄補充の問題構成です。   |
| IV  | 日本の消費者行政について、その歴史や内容を正確に理解しているか、また、消費者が置かれている現在の状況を問う問題です。空欄補充、語句選択、正誤選択等で構成されています。   |

## 出題の意図

|        |                |
|--------|----------------|
| 試験日    | 2026 年 2 月 5 日 |
| 教科・科目名 | 公共、政治・経済       |

|     |   |
|-----|---|
| I   | 近代以降の社会の思想的基礎に関する問題です。大学での学びにおいて必要な、社会に対する基本的な知見を身に付けているかを確認しています。具体的には、社会契約論がどのような社会の変容の下で生まれたのか、代表的論者であるホッブス、ロック、ルソーについての基本的理解を問うとともに、社会契約論の発想が、現代の社会思想にも受け継がれていること、具体的には、著名な論者であり、かつ対称的な主張をしているロールズとノージックについての基本的な理解を問う問題です。 |
| II  | 日本国憲法が保障する基本的人権に関して、いわゆる「新しい人権」についての基礎知識と理解を問う問題です。新しい人権のなかでも特に環境権、プライバシー権、知る権利、自己決定権などをめぐって立法や判例の動向についてどれだけ関心を有しているかを確認しています。  |
| III | 市場メカニズムが機能する場合と機能しない場合における、需要や供給、価格の決定に関する基礎的な知識を問う問題です。  |
| IV  | 日本における労働市場の構造変化と、それに伴う法制度の変遷についての理解を問う問題です。かつての日本型雇用慣行の崩壊から、非正規雇用の拡大、さらにはテレワークや働き方改革関連法といった最新の動向までを網羅しています。労働基準法や労働三法などの法的基礎知識に加え、ワーク・ライフ・バランスといった現代的な社会課題に対する正確な知識を測ることを意図しています。   |

## 出題の意図

|        |                |
|--------|----------------|
| 試験日    | 2026 年 2 月 6 日 |
| 教科・科目名 | 公共、政治・経済       |

|     |  |
|-----|--|
| I   | 日本国憲法における三権分立制の原則に関する基礎知識と理解を問う問題です。特に三権分立制を実現・保障するための憲法上の制度的仕組みについて正確な知識と理解を有してるかを確認しています。  |
| II  | 刻々と移り行くグローバル社会に関する理解度を測るために、世界各国・地域での地域統合の流れや新興国に関する知識を問う基礎的な問題を、教科書の範囲から出題しています。  |
| III | 社会保障制度について、世界における社会保障の発展の歴史や日本の制度に関する基本的な知識を確認したほか、現在の日本が抱えている課題についても問う問題です。   |
| IV  | マクロ経済の基礎的な知識を確認することを目的として出題しています。まず、経済成長と景気循環の要因に関して、技術革新や資本の調整の観点から整理できているかを確認しています。次に、GDP や国富の構成要素などマクロ経済指標とそれらが抱えている課題の理解を確認しています。最後に、物価の変動に関する用語と、物価の変動が賃金や貯蓄など身近な経済指標とどのように関連しているかを確認しています。 |

## 出題の意図

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 試験日    | 2026 年 2 月 11 日 |
| 教科・科目名 | 公共、政治・経済        |

|     |  |
|-----|--|
| I   | 日本国憲法と大日本帝国憲法に関する問題です。日本国憲法に基づく現在の政治体制は、大日本帝国憲法とその下での政治体制を修正して成立したものであるため、日本国憲法との対比において大日本帝国憲法の特徴を知っていることは、大学での学びにおいて大切な意味を持っています。そこで、天皇の位置付け、基本的人権の保障の仕方、統治機構に関する基本的な違いを問うとともに、大日本帝国憲法下の政治制度の両面性、すなわち民主的側面と弾圧的側面に関する基本的な知識を確認しています。 |
| II  | 日本や海外で起きてきた争いの経緯や推移、さらにそれに付随する事象も含めた国際問題への世界への取り組みの理解を問うことで、グローバル化が進む現代社会をその負の側面まで理解できていることを確認しています。   |
| III | 日本経済の発展と現状に関する基礎的な知識について問う問題です。近現代の物価変動の背景と関連する経済政策に関する空欄補充の問題構成になっています。   |
| IV  | 日本の中小企業および農業について、その定義や特徴を正確に理解しているか、また、中小企業と農業が置かれてきた過去の状況および置かれている現在の状況を問う問題です。空欄補充、語句選択、正誤選択等で構成されています。  |